

SDGsを活用した自立・循環型地域経済モデルの確立

C
9

丸重製紙企業組合

住 所	〒501-3784 岐阜県美濃市御手洗464番地		
U R L	http://www.marujyu-mino.com/compnay		
設 立	昭和26年2月	主 な 業 種	和紙製造業
組 合 員 数	10人	出 資 金	10,000千円

■背景・目的

近年、洋紙(パルプ)や石油製品の消費拡大により、和紙の需要は減少傾向にある。また、美濃和紙の産地として知られる美濃市は、少子高齢化による地域経済の衰退という問題を抱えていた。当組合では、これらの問題解決へ取り組むべく「美濃と和紙を元気にする」をスローガンに掲げて、新たな活動を始めた。

■取組みの手法と内容

「美濃と和紙を元気にする」取組みとして、はじめに、SNS(フェイスブック)を使って、自社・地域の情報を発信することに着手した。事業者の減少が進む和紙業界において、積極的なPRの重要性を認識していたためである。この取組みによって、消費者・同業者などつながることができ、消費者ニーズ・商流といった情報収集が可能となった。また、より直接的にPRすることを目的に、工場見学を開始した。反響は大きく、新たな顧客層の開拓につながると共に、「自社を観光地としてPRする」という着想につながっていった。

この着想を元に、美濃市内での利益循環を目指して、地元企業等との共同出資により地域電力会社である「みの市民エネルギー株式会社」を設立した。平成29年に美濃市での電力販売をスタートさせ、契約者数を順調に伸ばしている。また、美濃の観光地を盛り上げるため、古民家再生事業を中心とした街づくりに取り組む「みのまちや株式会社」を企業との共同出資により設立した。その後、宿泊施設である「NIPPONIA美濃商家町」と、組合直営の和紙専門店の「Washi-nary」を開業させ、美濃市の観光業の一翼を担うまでとなった。

組合のPR・情報発信だけに留まらず、企業との連携により地域の振興にも携わることで、結果的に美濃地域における組合の認知度や地位向上につながっていった。

■成果とその要因

次々と新たな事業・活動に着手できた理由は、「美濃と和紙を元気にする」という明確な目標があったからである。この目標にSDGsが掲げる「持続可能」という考え方を取り入れ、「自立型・循環型の地域経済モデル」という組合ビジョンを確立させることができた。今後は、新たなビジョンを元に循環型社会を目指した多角的な事業展開を見据えている。

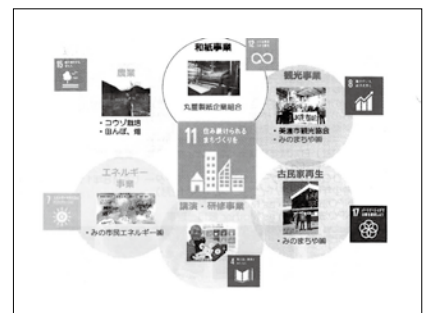
社会貢献・SDGs



NIPPONIA美濃商家町の外観



Washi-naryの内観



事業展開 略図



Point

目的・目標から逆算的に実行策を考えていく「ビジョン経営」を実践することができていた。そのため、意思決定がスピーディーかつ確かで、事業全体に推進力を与えている。